

令和6年度卒業式 「式辞」

桜のつぼみも日に日に膨らみ、そこかしこで春の訪れを感じることができる今日のこの良き日、令和6年度倉敷市立西中学校の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これまでの中学校生活、どのような3年間でしたか。最も心に残っていること、学んだこと、大切にしてきたこと、どんなことですか。

私はこの一年、教室で、廊下で、休み時間に、部活動で、そして様々な学校行事の中で、本当にたくましく成長してきた皆さんの姿に、幾度となく触れてきたように思います。時に、皆さんの発する言葉や立ち居振る舞いは、思いやりにあふれ、尊敬に値するものでした。その屈託のない笑顔や一生懸命な姿に励まされ、心癒され、私自身、その時々元気をもらってきたように思います。皆さんがこれまで積み上げてきた努力とその確かな足跡に、心から敬意を表します。

門出にあたり、二つのことをお話しします。一つ目。皆さんは「星の王子様」という本を読んだことがありますか。この本は、フランスの作家、サン・テグジュペリという人が書いた、今でも世界中で長く読み継がれている本です。その中に出てくるキツネは、王子様に対して次のようなことを言います。「心で見なくちゃ、物事はよく見えないってことさ。肝心なこと、大切なことは、目に見えないんだよ。」

ここで言われる「心で見る」とは、どういうことでしょうか。皆さんはどう思いますか。それは、目で見えている物事の表面を突き抜けて、その本当の姿、本質、真実を理解しようとするということではないかと思うのです。果たして私たちは、「心で見よう」としているのでしょうか。

また「大切なことは目に見えない」とは、どのような意味なのでしょう。皆さんは、中学校生活で多くのことを学ぶ中で、「目には見えない大切なこと」について、気づき、理解し、身につけてきたのではないですか。目には見えない大切なもの…、例えば「友情」や「信頼」、「向上心」や「意欲」、「思いやり」や「感謝」、「愛情」など。ただ、その学びは、時に無意識的で、自ら進んで学んできたといったものばかりではなかったかも知れません。これからの時代、意識せず受動的に「与えられたものを受け取る」とか、「求められるから答える」というだけでなく、意識的・能動的・主体的に広く周囲を見渡し、自ら課題を見つけ、それらを進んで解決していこうとする態度こそ、身につけていく必要があるのではないかと思うのです。私たちは、本当は「目には見えない大切なもの」を見逃しているのかも知れません。

皆さんの前途は、可能性に満ちています。「大切なもの」を「心の目」でしっかりと見つめ、理解し、自らの人生を豊かに歩んでいってほしいと願っています。

二つ目。この西中学校のこと、忘れないでください。私たちは、ここで偶然出会い、そして別れようとしています。出会った友達のこと、先生のこと、かけられてきたほんの些細な言葉や忘れられない経験。この中学校に共に集ったことに、誇り、プライドをもって未来を生きていってほしいと思います。これから先、つらい時、苦しい時、悲しい時に、ぜひ思い出してください。きっと、皆さんが立ち上がり、前に進んでいく力、エネルギーになるのではないかと思います。この西中学校でのこと、忘れないでください。

終わりにになりましたが、本日は、倉敷市議会議員で「議長」の「荒木竜二様」、また倉敷市議会議員で本校「青少年を育てる会会長」の「中島光浩様」をはじめ、日頃から本校の教育活動の推進にご尽力をいただいておりますご来賓の方々にご臨席を賜り、本校令和6年度卒業生の門出をご祝福いただきまして、誠にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

そして、保護者の皆様。限りない愛情を注いで育ててこられましたお子様が、9年間の義務教育を無事に終わられ、本日、ここに晴れの日を迎えられました。感慨もひとしおのことと存じます。心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。皆様には、これまで本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、教職員一同、深く感謝をいたしております。本当にありがとうございました。

さあ、それでは卒業生の皆さん、今後の皆さん一人一人の健闘を祈ります。

令和7年3月14日

倉敷市立西中学校長 笠原 和彦